

高校生の性知識と性情報についての調査報告

中 越 利 佳*, 草 薙 康 城*, 宇 都 宮 温 子*
今 村 朋 子*, 永 江 真 弓*

A Report on Sexual Knowledge and Learning among Senior High School Students

Rika NAKAGOSHI, Yasuki KUSANAGI, Haruko UTSUNOMIYA
Tomoko IMAMURA, Mayumi NAGAE

Key Words : 高校生 性知識 性情報

序 文

高校生の性交経験率は「若者の性」白書¹⁾によると、高校3年生の時点で、男子35.7%、女子44.3%を示し、ここ数年は横ばい傾向である。一方20歳未満の人工妊娠中絶率は、減少傾向を示し、平成20年度は、人口千対7.6²⁾であった。その背景として、低用量ピルの承認・普及や学校教育での性教育・避妊教育の普及効果、若者の性交頻度の減少が指摘されている³⁾。果たして、10代の人工妊娠中絶率が減少した背景に、学校教育での性教育の効果が表れているのであろうか。

木原は⁴⁾、WYSHプロジェクト（思春期の性教育）において、第1に「性生活を始めた人には誰にでも性感染症、望まない妊娠の可能性があること」として性に対する関心を持たせること、第2にかけがえのない自分の存在を認識し、時間をかけて相手との丁寧な人間関係を築くこと、「性を豊かな人間関係の中に位置づけること」を目標に置いた性教育を提唱している。愛媛県教育委員会でも、WYSHプロジェクトを基盤とした性教育指導マニュアル⁵⁾を作成し、小学校から高校までの一貫した性教育を進めている。児童生徒が自ら考え、判断し、意思決定ができる能力を身につけ、望ましい行動がとれるようにすることを目標とし、性教育の実践に取り組んでいる。

生徒自身が自ら考え、判断するためには、性に関する正確な基礎的知識が必要である。性に関する知識を持つことは、リスクを認識することであり、予防意識に繋がっていくものである。また性に関する情報が氾濫している現代社会ゆえに、性情報を適切に判断し、また自分が必

要な情報を得るために適切な性情報源にアクセスしていく能力の獲得も望まれる。

本研究は、高校生の性知識の獲得状況と主な性情報源についての実態を知り、また性情報源による性知識獲得の違いを明らかにする目的で調査したので、報告する。

方 法

1. 対 象

本校教員が性教育の出張講義を行っている中予地区の公立高校で、学校責任者の同意が得られた4校、962名の高校生を調査対象とした。

2. 調査期間

平成21年10月～平成22年2月

3. 調査方法

本調査は、個人回答式の無記名自記式質問紙を調査用紙として用いた。講義終了後、本研究の意図を生徒に説明、協力を依頼し、調査用紙を配布した。その場で回答、回収する集合調査とした。

4. 調査内容

属性として、性別、学年、先行調査で用いられた性知識（避妊と性感染症に関する知識）に関する質問（10問）⁶⁾⁷⁾、主な性情報源⁸⁾（10項目、2項目まで複数回答可）である。調査内容の項目とカテゴリーは、表1に記す。

*愛媛県立医療技術大学保健科学看護学科

表1 調査項目の内容とカテゴリー

要因群	項目	カテゴリー
属性	年齢	
	性別	1. 男子 2. 女子
	学年	1. 1年生 2. 2年生 3. 3年生
性知識 *	1. 膣外射精は確実な避妊法である	
	2. 排卵はいつも月経中に起こる	
	3. 精液がたまりすぎると体に悪い影響がある	
	4. 性感染症を治療しないと不妊症になる	
	5. オーラルセックスでは、性感染症はうつらない	
	6. 性感染症にかかっているにもかかわらず症状は出ない	
	7. 性感染症にかかっているとエイズウイルスに感染しやすい	
	8. ピルでは、エイズウイルスや性感染症を予防できない	
	9. エイズウイルス感染後数日では感染の有無はわからない	
	10. 治療薬の進歩でエイズの発病を遅らせることができる	
性情報源 **	1. 得たくない	6. TV・VTR
	2. 家庭	7. ゲーム
	3. 友人・先輩	8. インターネット
	4. 雑誌	9. 病院・保健所などの専門機関
	5. 専門書	

* ○:正しい ×:間違っている △:わからない

正解を1点、不正解・わからないを0点で得点換算し、合計点を性知識得点とする

** 二つまで複数回答可

5. 分析方法

性知識の10問は、正解を1点、不正解、わからないを0点とし、10点満点で得点化し、性知識得点とした。

単純集計後、学年別性知識得点の比較を分散分析、男女別比較は、student's-t-testを用いた。また性情報源と性知識の回答の学年及び男女別の比較は、クロス集計後χ²検定、残差分析、フィッシャーの直接法を用いた。なお分析は、統計ソフトSPSS Ver.15.0を使用した。

6. 倫理的配慮

調査対象校の学校責任者に、調査の目的・意義を文書と口頭で説明し、承諾を得た。調査対象者には、本調査への参加協力は自由意志であり、協力を断っても、不利益は生じないこと、回答は無記名であり、データはコンピューターを用いて統計的に処理し、個人や学校名が特定されないこと、調査の途中で中断してもよいこと、調査用紙の回収をもって参加同意が得られたこととする旨を口頭・文書にて説明した。調査用紙は、研究者の研究室にて保管し、論文作成後は、裁断破棄するとともに、PCデータは、消去する。なお本研究は、本学研究倫理委員会の承認を得て実施した。

結 果

1. 回答者の概要

調査対象者962名に調査用紙を配布し、866名から回答が得られた（回収率90.0%）。内容に不備があるものを除き、有効回答が得られた679名（有効回答率78.4%）を分析対象者とした。対象者の内訳は表2に記す。

表2 対象者の内訳(人)

学年	1年生	2年生	3年生	全体
男子	33	26	212	271
女子	53	45	310	408
全体	86	71	522	679

表3 男女別性知識得点

性別	人数	平均値	標準偏差
男子	271	6.42	2.46
女子	408	6.26	2.37

student's-t-test: ns

表4 学年別性知識得点

	人数	平均値	標準偏差
1年生	86	5.86	2.29
2年生	71	5.83	2.43
3年生	522	6.47	2.41

ANOVA, Bonfferoni: ns

表5: 男女別 性知識の回答数(人)と正答率(%)

	性別	正解	不正解	正答率 (%)	全国平均 正答率 (%)
1. 膣外射精は、確実な避妊法である	男子	213	58	78.6	69.8
	女子	318	90	77.9	67.3
2. 排卵はいつも月経中におこる	男子	191	80	70.5	15.8
	女子	201	207	49.3	45.0
3. 精液がたまりすぎると、体に悪影響がある	男子	119 *	152	56.1	45.0
	女子	140	268 *	34.3	13.2
4. 性感染症を治療しないと不妊症になる	男子	206	64	76.3	49.0
	女子	331	76	81.3	58.6
5. オーラルセックスでは、性感染症はうつらない	男子	219	52	80.8	48.4
	女子	325	83	79.7	50.4
6. 性感染症にかかっている、必ずしも症状はでない	男子	136	135	50.2	48.3
	女子	206	202	50.5	54.2
7. 性感染症にかかっていると、エイズウイルスに感染しやすい	男子	165	106	60.9	26.0
	女子	228	180	55.9	
8. ピルは、エイズウイルス感染や性感染症を予防できない	男子	179	92	66.1	49.0
	女子	270	138	66.2	
9. エイズウイルス感染後、数日では、感染の有無はわからない	男子	134	137 *	49.6	27.0
	女子	301 *	107	73.8	
10. 治療薬の進歩でエイズの発病を遅らせることができる	男子	176	95	73.8	32.0
	女子	237	171	73.8	

Fisher's-test, *p<.05

表6: 学年別 性知識の回答数(人)と正答率(%)

	学年	正解	不正解	正答率 (%)
1. 膣外射精は、確実な避妊法である	1年生	51	35 *	59.3
	2年生	45	26 *	63.4
	3年生	435 *	87	83.3
2. 排卵はいつも月経中におこる	1年生	30	56 *	34.9
	2年生	32	39	45.1
	3年生	258 *	264	49.4
3. 精液がたまりすぎると、体に悪影響がある	1年生	31	55 *	36.0
	2年生	34	37	47.9
	3年生	266 *	256	51.0
4. 性感染症を治療しないと不妊症になる	1年生	74	12	86.0
	2年生	57	14	80.3
	3年生	408	114	78.1
5. オーラルセックスでは、性感染症はうつらない	1年生	65	21	75.6
	2年生	48	23 *	67.6
	3年生	431 *	91	82.6
6. 性感染症にかかっている、必ずしも症状はでない	1年生	41	45	47.7
	2年生	31	40	43.7
	3年生	270	252	51.7
7. 性感染症にかかっていると、エイズウイルスに感染しやすい	1年生	60 *	26	69.4
	2年生	37	34	52.1
	3年生	266	256 *	51.0
8. ピルは、エイズウイルス感染や性感染症を予防できない	1年生	40	46 *	46.5
	2年生	41	30	57.7
	3年生	354 *	168	67.8
9. エイズウイルス感染後、数日では、感染の有無はわからない	1年生	54	32	62.8
	2年生	46	25	64.8
	3年生	380	142	72.8
10. 治療薬の進歩でエイズの発病を遅らせることができる	1年生	56	30	65.1
	2年生	43	28	60.6
	3年生	313	209	60.1

chi-square-test, *p<.05

2. 性知識得点の男女別・学年別比較

男女別の性知識得点を表3、学年別の性知識得点を表4に記す。男女別、学年別の性知識得点は、いずれも有意な差は認められなかった。

3. 男女別性知識の回答と正答率

性知識10項目の性知識に関する男女別の正解者数と不正解者数の内訳及び正答率、ならびに先行研究の全国平均正答率を表5に記す。

男女で有意差がみられた項目は、「3. 精液がたまり

すぎると体に悪影響がある」で、男子に正解者数が、女子に不正解数が有意に多かった。また「9. エイズウイルス感染後、数日では感染の有無はわからない」で、女子に正解者が、男子では不正解が有意に多かった。

また正答率で50%以下の項目は、「2. 排卵はいつも月経中に起こる」の女子49.2%、「3. 精液がたまりすぎると、体に悪影響がある」の女子34.3%、「9. エイズウイルス感染後、数日では感染の有無はわからない」の男子49.6%であった。

4. 学年別性知識の回答と正答率

性知識10項目の性知識に関する学年別の正解者数と不正解者数の内訳及び正答率を表6に記す。学年で有意差が認められたものは、「1. 膣外射精は、確実な避妊法である」で、1・2年生は不正解の数が多かったのに対し、3年生では正解者の数が有意に多かった。また「2. 排卵はいつも月経中におこる」「3. 精液がたまりすぎると、体に悪影響がある」「8. ピルは、エイズウイルス感染や性感染症を予防できない」の3項目では、1年生の不正解数が多く、3年生の正解数が有意に多かった。しかし、「7. 性感染症にかかっていると、エイズウイルスに感染しやすい」の項目では、1年生の正解者数が多く、3年生の不正解数が有意に多かった。

正答率が50%以下の項目は、「2. 排卵はいつも月経中におこる」で、1年生34.9%、2年生45.1%、3年生49.4%であった。また「3. 精液がたまりすぎると体に悪影響がある」で、1年生36.0%、2年生47.9%であった。「6. 性感染症にかかっている、必ずしも症状はでない」では、1年生47.7%、2年生43.7%。「8. ピルは、エイズウイルス感染や性感染症を予防できない」では、1年生46.5%であった。

5. 性情報源と性知識について

性情報を得ることに関する思いについて、性別と学年ごとの人数割合を図1・2に、また主な性情報源について、性別・学年ごとの人数割合を図3・4に記す。性情報源別の性知識得点の平均を、表7・表8に記す。

性情報を得ることについては、男子16.1%、女子11.5%、全体として13%の生徒が情報を得たくないと答えており、男女に有意差は認められなかった。学年別比較では、2年生に性情報を得たくないとする者が有意に多かった。

主な性情報源では、女子が学校、雑誌と答えた者が有意に多く、男子では、インターネットと答えた者が有意に多かった。学年別では、1年生が友人、2年生が雑誌、3年生では、学校、インターネットが有意に多かった。

表7: 性情報を得たいと思うかについての性知識得点比較

性情報	人数	平均値	標準偏差
得たくない	106	5.56	2.72 *
得たい	569	6.47	2.32

student's-t-test

* p<.05

表8: 性情報源別性知識得点比較

性情報源	人数	平均値	標準偏差
家庭	13	6.23	2.31
学校	178	6.18	2.35
友人	235	6.55	2.28
雑誌	68	6.71	2.27
専門書	13	6.92	2.56
TV	22	6.00	2.25
ゲームソフト	3	4.33	4.51
インターネット	119	6.84	2.28 *
専門機関	36	6.00	2.35

student's-t-test

* p<.05

全体としては、友人(30.0%)、学校(22.4%)、インターネット(15.0%)の順に多かった。

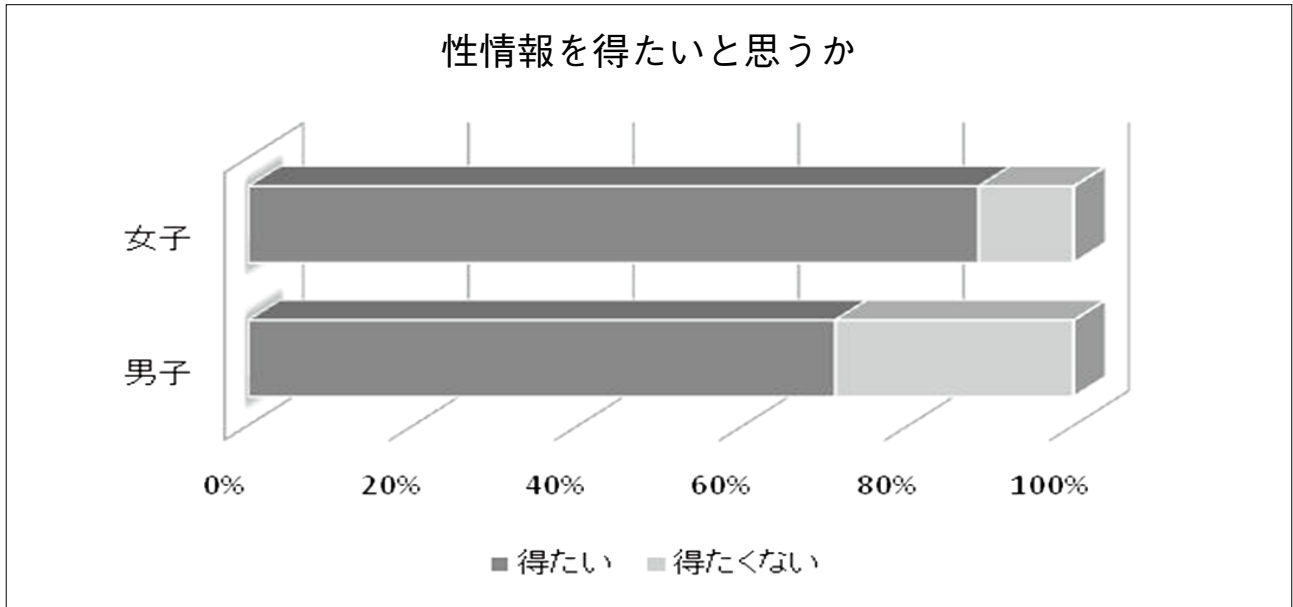
性情報源による性知識得点では、情報を得たくないとする生徒の性知識得点が性情報を得たいとする生徒と比較して有意に低かった。また主な性情報源でインターネットを選んだ生徒の得点が、他の情報源を選択した生徒の得点と比較し、有意に高かった。

考 察

1. 性別による性知識の違いについて

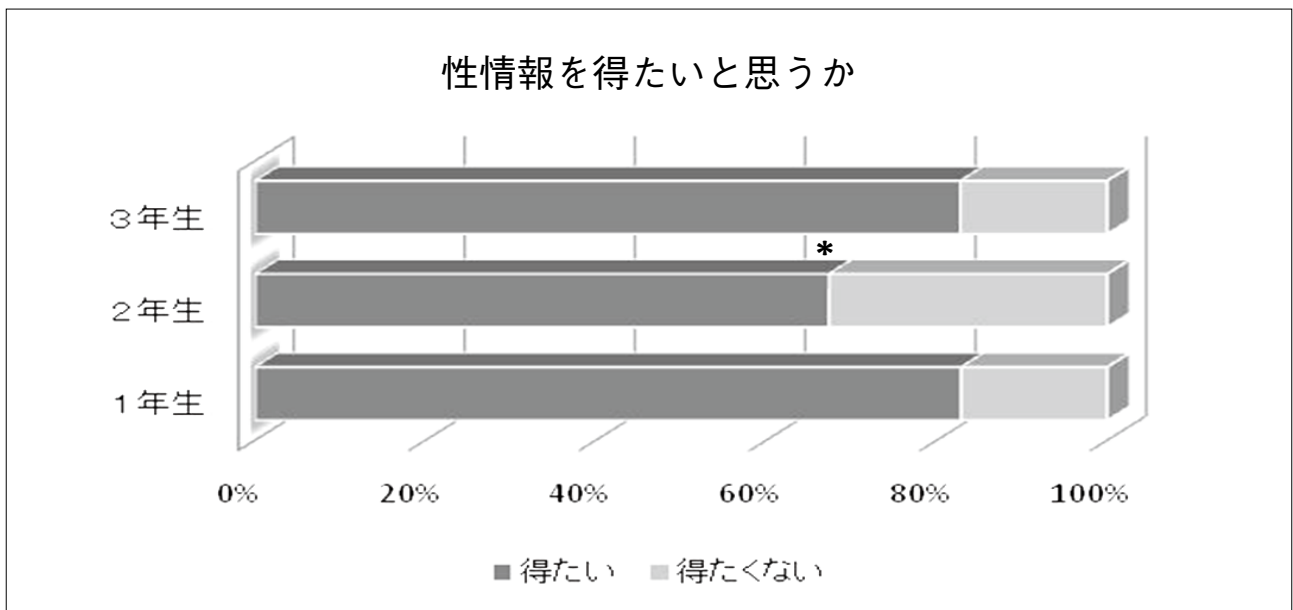
性知識得点は、男女間で有意な差は認められなかった。本調査で用いた質問項目の質問1～6は、第6回青少年の性行動全国調査2005⁶⁾と同じ内容であり、質問7～10は、木原⁷⁾が2003年に高校生を対象に実施した調査と同じものを使用している。先行調査の正答率と本調査の正答率を比べると、質問6の正答率は、全国平均とほぼ同じであるが、それ以外では本調査の高校生の正答率が高い。特に男子の正答率は全国平均15.8%～69.8%に対し、本調査では、正答率50.1%～80.8%と男子の性知識の高さが示された。質問7～10での、2003年の調査の高校生との比較では、男女共にほぼ50%～73.8%の正答率を示しており、本調査対象者の性知識の高さが示されている。

調査対象校は、医師や医療関係者による性教育の講演会を毎年開催している背景があり、生徒の性知識が高まっていることが推察された。また本研究の調査対象校区の一部の中学校では、性教育を保健所と連携し、継続的な取り組みもなされており、中学校からの継続した性教育の成果が生徒の性に関する知識を高めていく要因に



Fisher's-test:ns

図1：性別比較



chi-square-test, *p<.05

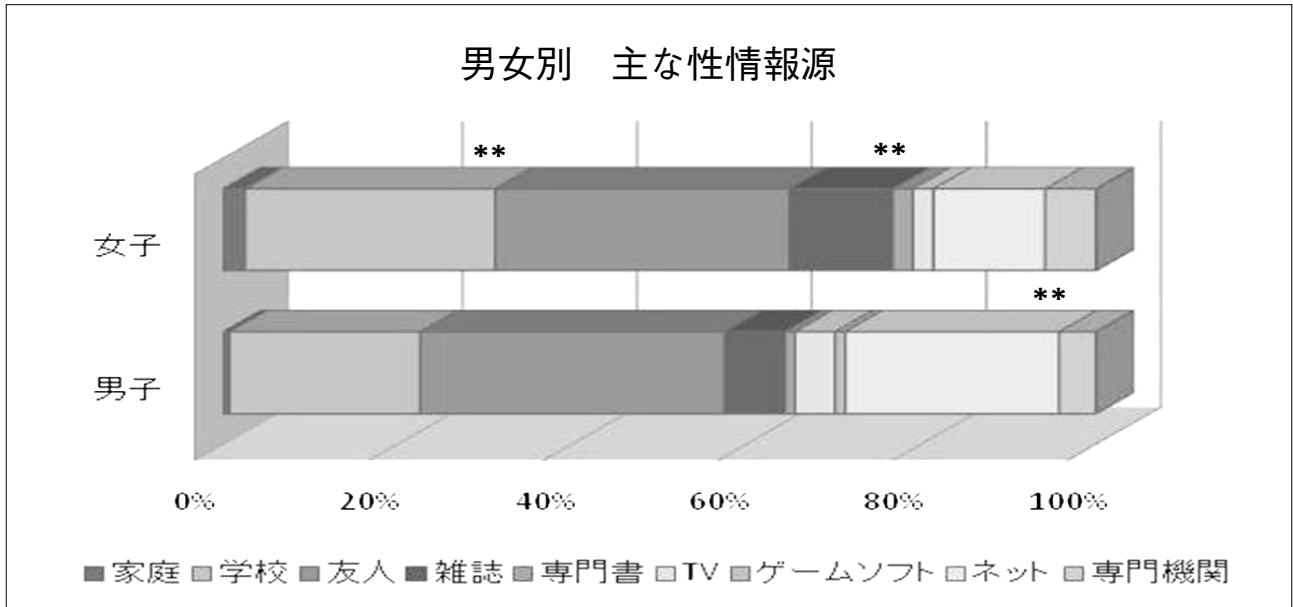
図2：学年別比較

なったものと推察される。

全国平均と比較すると、性知識は高いと考えられるが、さらなる教育効果を上げるため、今回の調査で、正答率の低かった項目、また男女の差があった項目の検討が必要である。質問1「排卵はいつも月経中におこる」質問2「精液がたまりすぎると体に悪影響がある」は、回答率が50%以下であり、特に女子の不正解の数が多い。性感染症やエイズなどは、保健体育の教科書にも取り上げ

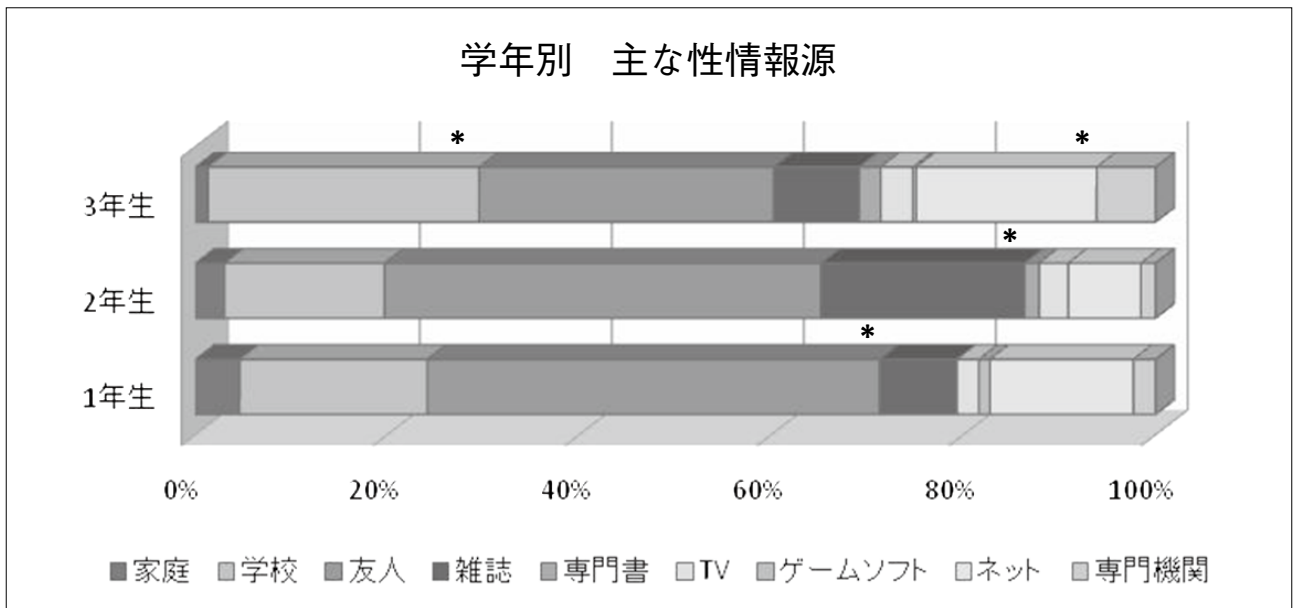
られ、学ぶ機会も多いが、排卵と月経のメカニズムや射精と男性の身体の健康についての知識は十分ではないことが明らかになった。基礎的な月経や射精のメカニズムが理解できていなければ、間違った避妊法の選択や避妊の時期を誤るなどの危険が予測される。従って、月経や射精のメカニズムについて理解を促す教育内容を検討していく必要性が示された。

質問9「エイズウイルス感染後、数日では感染の有無



Fisher's-test **p<.01

図3:性別による主な性情報源



chi-square-test, *p<.05

図4:学年別による主な性情報源

はわからない」では、男子の不正解が有意に多かった。エイズやHIV感染予防の知識はある程度獲得できているものの、HIV感染時の潜伏期や症状、検査機関の紹介などHIV感染が疑われる場合の対処行動等を含めた指導を強化する必要がある。

2. 学年による性知識について

高校1年生から3年生までの学年進行と性知識につい

てみていくと、質問1, 2, 3, 5, 8は、3年生に正解者が多く、1・2年生は不正解者が有意に多い結果となり、学年進行によって避妊と性感染症に関する内容の性知識が高まっていると推察された。反面、学年進行による有意差がみられなかったものは、エイズ・HIV感染に関する内容であった。質問7では、1年生に正解者の数が有意に多く、3年生に不正解者が有意に多いという結果になっている。エイズ・HIVに関する知識は、保健体育・

家庭科その他の教科書でも取り上げられ、学年を通して学ぶ機会があるためではないかと推測されたが、正確な知識を定着させるためにも、学習プログラムの統一にむけた検討が必要であろう。

高校3年生までは、本人の希望の有無にかかわらず、集団指導による性教育を受けている。しかし高校卒業後は、集団で性教育を受ける機会はほとんどなく、自らが主体的に性知識と情報を得ていかなければならない。加えて高校卒業後は、性行動が活発化する時期でもあり、卒業までに、正確な性知識と避妊・性感染症予防を実践できる生活スキルを身につけておく必要がある。

学年進行による性知識の変化をみている全国調査がないため、比較検討はできないが、各学年で正答率が50%以下の項目については、教育内容を見直し、高校3年生までに知識が高まるように強化していく必要がある。加えて主体的に適切な性情報が得られるように、専門書や専門機関・相談窓口の紹介、信頼できるWebの紹介などを含めた指導が必要である。

3. 性情報源と性別・学年の違いについて

性に関する知識の情報源は、女子では学校や雑誌、男子ではインターネットが有意に多く、先行調査^{6,8)}とほぼ同様な結果であった。学年別では、1年生は友人、2年生では雑誌、3年生では学校とインターネットが有意に多く、学年による違いがみられた。

本研究対象者の特徴として、20%以上の生徒が学校から主な性情報を得ており、学校教育での性教育が与える影響が大きいことが推察された。高田ら⁹⁾の調査からも、主な性情報源として学校が上っており、学校教育における性教育への期待が高いことが示されている。学校教育における性教育は、単に性知識の提供のみにとどまらず、広く専門家や地域、家庭との連携を密にし、生徒自身が、自らの性の健康を守ることにについて関心を持ち、行動できるよう導いていくことが必要である。

4. 性情報源と性知識について

主な性情報源と性知識得点をみると、「インターネット」を情報源とする者が、有意に高い性知識得点を示した。その他の性情報源と性知識得点では有意差が見られなかった。中澤¹⁰⁾は、学校教育での「避妊」や「性感染症」の学習経験が、一定程度の適切な知識の獲得につながることで、また一定程度の適切な知識を獲得している者は、他の性情報源による影響を受けにくいことを述べている。本研究の対象者は、前述のとおり、学校教育にて性教育を受ける機会に恵まれていた。インターネットを情報源とする者が、有意に高い性知識得点ではあった背景には、正確な情報源にアクセスできていたと考えられ、学校の性教育において、適切な情報選択能力を得

ていたことが推察できる。

しかし、注意しなければいけないのは、2年生の20%、全体として13%の生徒が性情報を「得たくない」としたことである。性について悩むであろう17歳前後の時期に、性に関する情報を得ることに否定的、あるいは無関心を示していることである。性情報を得ることに否定的な意識を持つ者は、性を自分のこととして考えることができず、その性行動においては、消極的、あるいは慎重であることが推察される。

しかし、性情報を得ることに無関心な生徒は、性行動に伴うリスクを自分のこととして認識していないということであり、誤った知識と自己決定能力を持たないまま、危険な性行動をおこす可能性が極めて高い。今回の調査では、なぜそう思うかといった理由について確認できていないため、結論づけることができないが、性情報を「得たくない」とした生徒の性知識得点が、情報を「得たい」とする生徒に比べ、有意に低いことに注目したい。性情報を得ることに無関心な生徒への教育をどのようにしていくかが、今後の検討課題である。

今回の調査は、限定された地区での調査であった為、愛媛県内の高校生の特徴を示したものになっていない。今後は、県内全体を調査し、地域性や高校生の背景（性別・学年・専攻別）による特性を明らかにしていきたいと考える。

引用文献

- 1) 日本性教育協会編 (2007) : 「若者の性」白書 - 第6回青少年の性行動調査報告. p.53, 小学館
- 2) 財団法人母子衛生研究会 (2010) : わが国の母子保健 平成22年. p.27, 母子保健事業団
- 3) 「健やか親子21」の評価等に関する検討会(2010): 「健やか親子21」第2回中間評価報告書, 厚生労働省, <http://www.mhlw.go.jp/shingi/2010/03/s0331-10a.html>.
- 4) 木原雅子 (2008) : 10代の性行動と日本社会 - そしてWYSH教育の視点. p.123-127, ミネルヴァ書房
- 5) 愛媛県教育委員会 (2007) : からだ, いのち, こころを守り育てる教育のために (すべての教職員が取り組む性教育指導マニュアルダイジェスト版. p.1-3
- 6) 日本性教育協会編 (2007) : 「若者の性」白書 - 第6回青少年の性行動調査報告. p.194, 小学館
- 7) 木原雅子 (2008) : 10代の性行動と日本社会 - そしてWYSH教育の視点. p.32-34, ミネルヴァ書房
- 8) 東京都幼稚園・小・中・高・心障性教育研究会編(2005) : 児童・生徒の性. p.93, 学校図書
- 9) 高田鼓, 岡崎愉加, 池上香織他 (2009) : 高校生の

避妊に関する性教育ニーズ－男女の比較－. 母性衛生, 50, 2, 453-460

- 10) 中澤智恵(2007): 性教育・性情報源と性知識および避妊に対する態度形成. 「若者の性」白書. 日本性教育協会編, p.162-166, 小学館

要 旨

本研究は、高校生の性知識の獲得状況と主な性情報源についての実態を明らかにし、性情報源による性知識の獲得状況の違いについて比較することを目的として実施した。男女による性知識得点に有意差はなかったが、射精と月経のメカニズムにおいて、女子の不正解者が多かった。男子は女子に比べて、HIV感染後の潜伏期間の不正解者が多かった。学年進行による性知識得点に有意差はみられなかったが、1・2年生と比較すると3年生は、性感染症や避妊に関する知識で正解者が多かった。主な性情報源は、友人、学校、インターネット、雑誌の順であった。インターネットを主な情報源としているものは、性知識得点が有意に高かった。しかし性情報を得たくないとする者が全体の13%にみられ、これらの性知識得点は、他の生徒の性知識得点と比較し、有意に低かった。性情報を得ることに無関心な生徒は、性知識が低く、これらの生徒への関わりが今後の検討課題である。

謝 辞

本調査を実施するにあたり、ご理解・ご協力を頂きました学校関係者の皆様、調査にご協力頂きました高校生の皆様に深く感謝いたします。